

日本航空台灣分公司（函）

地址：台北市 105 民生東路三段 138 號 11 樓

電話：02-2175-5813

承辦人：日本航空事業開發室 劉麗珉

受文者：如收件單位

發文日期：中華民國一一二年二月一日

發文字號：日航外發字第 2023003

附件：線上課程及日本研習行程預定表、同意書、報名表、
聯合國發表之 17 個永續發展目標

主旨：謹送「2023 年 JAL SCHOLARSHIP 日本研究 PROGRAM」甄選大學生參加「線上研習暨赴日研習活動」之甄選辦法及報名表格式(如附件)，敬請 惠允推薦優秀學生參加甄選。

說明：

一、活動宗旨：增進亞洲各國學習日語之大學生對日本的深入了解，促進國際文化交流，期許能成為中日文化交流之橋樑，並積極分享所學，對社會有所貢獻。

此次活動採線上研習課程 7 日及赴日研習行程 15 日，共計 22 日。

二、主辦單位：公益財團法人 JAL 財團

三、協辦單位：日本航空公司

四、活動期間：2023 年 6 月 22 日(週四)～7 月 13 日(週四)共 22 日。

包含以下線上研習課程及赴日研習行程

線上研習日期：2023 年 6 月 22 日(週四)～6 月 28 日(週三)共 7 日。

赴日研習日期：2023 年 6 月 29 日(週四)～7 月 13 日(週四)共 15 日。

線上研習及赴日研習活動需全程參與(遇特殊狀況，將更改研習日期或取消，敬請諒解)

五、甄選人數：2 名

六、參加資格：

(一)對日本及 SDGS、環境保護等有興趣之大學、研究所在學學生
(2023 年參加研習活動時仍具在學資格為限)。

(二)20 歲以上、25 歲以下、中華民國國籍(本人與其雙親均為不以日語為母語者)、品行良好、身體健康、積極進取、有團隊精神、日語能力檢定 2 級以上合格者(含 2 級合格者)。

七、注意事項：

(一)獲選同學於參加線上研習時，須全程參與研習課程，遵守紀律，若有任何不妥行為、主辦單位將有權隨時終止其參與研習課程。參加赴日研習時，須搭乘主辦單位指定之航空公司班機及全程參與研習課程。如因個人因素，希望更改赴日及歸國日期、班機等事宜，概不受理。

(二)研習前，會由主辦單位提出事前課題檢討、及研習結束後須提交心得報告，參加同學須於主辦單位限定之期間內繳交。

- (三) 獲選同學參加課程研習期間之錄影內容、書面發表等資料之使用權皆歸屬主辦單位。
- (四) 獲選同學參加課程研習後，期盼能以日航財團獎學金代表之所學經驗充分活用，貢獻所學。

八、此次線上及赴日研習內容主軸：

「SDGs」：～持続可能な未来へ～未来に続く豊かさのために、環境について考えよう

説明：2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され，地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

聯合國發表之 17 個永續發展目標，請參照附件資料。

九、報名辦法：

參加同學填妥報名表(請以日文填寫共4頁)及同意書後，附上日語能力檢定2級以上(含2級)合格證書影本，以郵寄方式寄至：

(10596) 台北市松山區民生東路三段 138 號 11 樓

日本航空台灣分公司事業開發室/劉麗珉

十、報名截止日期：2023 年 3 月 8 日（星期三）截止收件，郵戳為憑。

一律以學校為單位，每校推薦名額(含研究所)最多合計 3 名。

十一、評選方式：第一次書面審查合格者，將個別通知參加面試。

十二、面試日期：2023 年 3 月 15 日(星期三)（時間將另行通知）

十三、面試方式：將以電郵方式個別通知

十四、公佈日期：2023 年 3 月 30 日(星期四)前（將個別通知）

十五、經費：赴日之機票及期間之住宿、餐飲、交通費用及海外旅行平安保險等（不包括私人花費），均由主辦單位負擔。

日商日本航空股份有限公司
台灣分公司



總經理

竹田 亨



2023JALスカラシッププログラム 日程表 (案)

	DATE	日付	曜日	プログラム内容
オンラインプログラム 7日間 * 1日3時間程度	1	6月22日	木	PM: オリエンテーション (あいさつ、注意事項、JAL財団活動紹介) チームビルディング
	2	6月23日	金	PM:【講義 & WS】SDGsに関する基礎知識 オンラインSDGsカードゲーム (SOMPOホールディングス株式会社サステナブル経営推進部)
	3	6月24日	土	PM:【講義 & WS】地球環境問題の現状 オンライン基調講演: 気候変動など (登壇者: 江守 正多さん 東京大学東京大学 未来ビジョン研究センター 教授、テーマ 未定)
	4	6月25日	日	休息日
	5	6月26日	月	PM:【講義 & WS】地球環境問題の解決に向けた取り組み事例 環境省 つなげよう、支えよう「森里川海プロジェクト」 SDGsを暮らしの中で実践するために
	6	6月27日	火	PM:【WS】オンライン研修のふりかえり及び日本における目標設定 ・「2022オンラインJALスカラシッププログラム」スカラ生、アクションプランのその後について発表 ・リアルプログラムにおける目標設定
	7	6月28日	水	休息日
リアルプログラム 15日間 (移動日、2日含む)	8	6月29日	木	各地区よりNRT / HND に到着。都内のホテルにチェックイン
	9	6月30日	金	AM: 休息日 PM:【講義】オリエンテーション (リアルにおける注意事項、日本でのマナー、事務局メンバー紹介) 【WS】チームビルディング 【交流】歓迎懇談会
	10	7月1日	土	AM: 福岡へ移動 (JLxxx便 HND xx:xx / FUK xx:xx) PM:【視察】宗像大社参拝体験、神宝館拝観 【交流】在福岡タイ総領事館スカロOBとの交流
	11	7月2日	日	AM:【基調講演】「海洋保全と私たちの暮らし〜宗像の海再生に向けて」 九州大学大学院 清野聡子准教授 PM:【WS】福岡教育大学SDGsサークルとの交流ワークショップ →日本の大学生との交流、意見交換など (福岡教育大学訪問予定)
	12	7月3日	月	終日:【体験】大島クリーンアップなど (調整中) 【インタビュー】クリーンアップ関係者へのインタビュー、5人/グループで複数名に対してインタビュー
	13	7月4日	火	AM:【視察】北九州市環境ミュージアム PM:【視察】北九州市魚町商店街 (ジャパンSDGsアワード内閣総理大臣賞) 【視察】シャボン玉石鹸 工場見学 (調整中)
	14	7月5日	水	AM: 東京へ移動 (JLxxx便 FUK xx:xx / HND xx:xx) PM: JALスカイミュージアム / 格納庫見学 見学終了後、休息時間
	15	7月6日	木	終日: 東京プログラム ・東日本鉄道文化財団プログラム / 東京駅 TESSEI社訪問 ・渋谷で体験するSDGsプログラム (若者の街で出会うSDGs)
	16	7月7日	金	AM:【視察】日本フードエコロジーセンター PM: ジブリ美術館
	17	7月8日	土	終日:【視察】樹木・環境ネットワーク協会
	18	7月9日	日	AM:【視察】武蔵野クリーンセンター PM:【講義】マシンガンズ滝沢と考えるゴミ問題 (講師: ごみ清掃芸人マシンガンズ滝沢さん)
	19	7月10日	月	AM: 日本での研修ふりかえり 終日: 公開シンポジウムについて (ガイダンス) 公開シンポジウム資料作成
	20	7月11日	火	AM: 公開シンポジウム資料 / 2030年のわたし (仮) 作成 PM:「公開シンポジウム」リハーサル
	21	7月12日	水	AM: JALスカラシッププログラム「公開シンポジウム」 PM: 修了式 夕方: フェアウェルパーティー ⇒終了次第、NRT/HND近郊へバスにて移動
	22	7月13日	木	帰国 NRT/HNDから各地へ出発

「2023JAL スカラシッププログラム」 アプリケーションフォーム

記入日 年 月 日

写真
JPEG 形式
でデータ貼付
(参加者名簿, 報告書で
皆さんと共有できるお写真を
お願いします。)

基本情報

名前(パスポート表記) **Print name as in Passport**

ローマ字

Tick Either ☐ 姓 Surname 名 Given Name Middle Name (if any)
☐ Full Name

カタカナ

姓 Surname 名 Given Name Middle Name (if any)

漢字 Kanji

(if any) 姓 Surname 名 Given Name Middle Name (if any)

プログラム中に呼んでほしいニックネーム

国籍

性別 ☐ 男 ☐ 女

生年月日

年齢

月 MM / 日 DD / 年 YY

パスポート番号

Date of Expiry:

現住所 (郵送に使用いたします。国名から郵便番号まで含めて、自宅のご住所を明確に記入してください。カタカナ使用不可。)

Print in English

(郵便番号 Zip-code :) Country/Region

電話 : (国/地域番号) +

FAX : (if Any) +

E-mail Address :

Any other Addresses for last minute communication before departure

(Skype ID, Wechat ID, Facebook, Line, Weibo, etc.) :

緊急時の母国の連絡先:

名前 _____ 続柄 _____

住所 _____

電話(国番/地域番号)+ _____ FAX(If Any)+ _____

E-mail Address: _____

Skype ID, Wechat ID, Facebook, Line, Weibo, (for emergency contact)

学校名 _____

専攻 _____

母国語 _____

日本語能力

日本語検定 () 級 () 年

日本語履修暦

☐ 討論ができる

☐ 日常会話ができる

☐ 片言

その他の外国語 (参考)

☐ 討論ができる

☐ 日常会話ができる

☐ 片言

☐ 討論ができる

☐ 日常会話ができる

☐ 片言

☐ 討論ができる

☐ 日常会話ができる

☐ 片言

健康状態

☐ 良い ☐ あまりよくない

常用の薬の有無 ☐ ある ☐ ない

(ある場合、具体的に記入) _____

アレルギー ☐ ある ☐ ない

(ある場合、具体的に記入)

☐ ペット _____

☐ 医薬品 _____

☐ 食 物 _____

☐ その他 _____

食事制限の有無 ☐ある ☐ない (本プログラムの内容上、希望に添えない場合があります)

ある場合、具体的に記入してください。

<例：豚肉、海老、卵、乳製品（ミルク、バター、チーズ）>

☐宗教上の理由 _____

☐アレルギー _____

☐その他 _____

好きな食べ物 _____

嫌いな食べ物、日本食で食べられない物 _____

飲酒 ☐お酒を飲む ☐お酒を飲まない

喫煙 ☐煙草を吸う ☐煙草を吸わない

ペットは好きですか？ ☐はい ☐いいえ

いいえの場合、具体的に ☐犬 ☐猫 ☐その他 _____

★「健康状態」以下、「食事制限」、「食事好き嫌い」、「飲酒」「喫煙」などの質問項目は、日本での受け入れ準備に必要な情報であり、スカラー採用の可否には直接関係いたしませんので、正確なご記入をお願いいたします。

海外旅行経験

時期・期間	国名	目的
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____

趣味・特技

将来の希望（職業など）

日本について興味のあること

[illegible]

本プログラムで学びたいこと、知りたいこと

[illegible]

The “2023 JAL Scholarship Program”
Consent Form

I, the undersigned, hereby agree to abide by all the rules and conditions of the “JAL Scholarship Program” sponsored by the JAL Foundation, in cooperation with Japan Airlines Co. Ltd., as indicated below.

The conditions and rules of this program are as follows:

1. Duration of the program: 22Jun.- 13July 13,2023 (22days in total)
2. The following costs will be met by the JAL Foundation and Japan Airlines:
 - Economy return air travel on JAL flight between Tokyo and the nearest airport to the scholar's Hometown that is serviced by JAL.
 - Insurance in case of sickness, injury or theft (excluding cash, cheques etc.) for the duration of The official scholarship program in Japan.
 - Fees for lectures, seminars and symposia.
 - All accommodation, as well as breakfast, lunch and dinner for the duration of the official program At lodgings are to be arranged by the JAL Foundation.
(Note: We will strive to cater to dietary restrictions that result from an individual's allergies and/or religious commitments.)
 - All transportation in Japan during the official program. This includes domestic air/train travel to Regional cities.
(Note: All expenses, apart from the aforementioned costs, must be met by the participant.)
3. The student must agree to follow the rules and conditions of her/his place of lodging (shared Rooms, separation of rubbish.etc).
4. The student must attend all classes, all sessions scheduled, and all activities scheduled by the JAL Foundation unless prevented by serious illness or misadventure.
5. The student must have an interest in Japan and be willing to experience Japanese culture and customs.
6. The JAL Foundation shall not be responsible for students' activities, either individual or collective, which take place outside of the official program.

7. The JAL Foundation reserves the right to decide whether a student should be withdrawn from the program in the event of her/his failure to comply with the laws of Japan.
8. The JAL Foundation reserves the right to decide whether a student is capable of further participation in the scholarship activities or whether the student should return to her/his own country in the event of any serious accident or illness.
9. The student will be required to return to her/his home country by the flight designated by the JAL Foundation upon completion of the official program.
10. The student is required to submit a report to the JAL Foundation by the assigned due date after her/his completion of the program. The topic and other requirement of the report will be instructed by the JAL Foundation.
11. The JAL Foundation and Japan Airlines reserve the right to retain copyright of any of the students' written submissions and to use them in any publications they deem proper. This additionally applies to any photographs and/or recordings that are taken during the duration of the program.

Failure to comply with these conditions will result in the participant being withdrawn from the program.

Signature: _____

Date: ____ / ____ / ____
(YYYY/MM/DD)

Name (print): _____

Family Name

First Name

Middle Name

Country/Region: _____

Parent/Guardian's signature: _____

Signature of JAL Branch Director: _____



国際連合広報センター
United Nations Information Centre

持続可能な開発サミット: 人々と地球のために、私たちの世界を転換させよう (2015年9月25-27日) 概要

プレスリリース 15-082-J 2015年09月17日

誰も置き去りにしない、新たな持続可能な開発アジェンダ

9月25日から27日にかけて、ニューヨークの国連本部で開催される「国連持続可能な開発サミット」には、161の加盟国の首脳が出席し、新たな野心的な持続可能な開発アジェンダを採択することになっています。この重要なアジェンダは、国際社会と各国政府が、今後15年間の繁栄と福祉の共有を促進するための出発点となるものです。



潘基文（バン・ギムン）国連事務総長は8月2日、サミットの成果文書に関する加盟国のコンセンサスができたことを受け、今回の合意が「私たちの世界にとって歴史的な転換点が訪れたことを告げる普遍的、画期的かつ統合的なアジェンダを含んでいる」ことを明らかにしました。

「これは『人民のアジェンダ』であり、あらゆる場所のあらゆる次元で貧困に終止符を打ち、誰も置き去りにしないための行動計画となります」事務総長はこのように述べています。

193の国連加盟国が合意したアジェンダ案「Transforming Our World: 2030 Agenda for Sustainable Development（私たちの世界を転換する：持続可能な開発のための2030アジェンダ）」は、宣言、17の持続可能な開発目標と169項目のターゲット、実施手段と新たなグローバル・パートナーシップに関するセクション、および、再検討とフォローアップの枠組みから構成されています。

このアジェンダは、貧しい国、豊かな国、中所得国を含め、あらゆる国々の行動を求める、独創性に富むものです。また、貧困に終止符を打つためには、経済成長を実現し、教育や保健、社会保障、雇用機会を含む幅広い社会的ニーズに対応する一方で、気候変動や環境保護にも取り組む計画が必要だという認識を示しています。さらに、不平等やインフラ、エネルギー、消費、生物多様性、海洋、産業化といった問題も取り扱っています。

この新しい持続可能な開発アジェンダは、エチオピアのアディスアベバで最近開催された「開発資金会議」の成果を土台としています。また、今年12月にパリで行われる新たな有意義かつ普遍的な気候協定に関する交渉にも好影響を与えることが期待されています。

人々と地球のためのグローバルな行動に向けた政府間協議プロセス

史上最大の成功を収めた貧困対策運動のきっかけとなった「ミレニアム開発目標（MDGs）」は、世界のリーダーが9月、採択する新たな持続可能な開発アジェンダのたたき台となっています。

1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された「国連環境開発会議（地球サミット）」以来、世界は人間の福祉を実現する新たな経路として、持続可能な開発の道を歩むことを明らかにしました。「アジェンダ21」で提示された持続可能な開発という理念は、経済開発と、人々のニーズを充足し、環境を守る成長とのバランスをとらなければならないことを認識するものでした。

新たな持続可能な開発アジェンダは、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」の成果、2010年の「MDGsサミット」、2012年の「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」の成果、および、全世界の人々が示した見解を基に策定されています。

各国はMDGsの成功を認識し、リオ+20の成果文書「私たちが望む世界」の中で、一連の持続可能な開発目標を策定し、検討と適切な行動を仰ぐためのオープン・ワーキング・グループの設置に合意しました。

オープン・ワーキング・グループは1年以上に及ぶ包摂的かつ集中的な協議の末、17の具体的な目標と、これに関連する169項目のターゲットを提案しました。

2年以上にわたり行われた目標の内容に関する政府間交渉には、市民社会その他のステークホルダーからも数多くの意見が寄せられました。包摂的で透明性のある協議の結果、8月2日には、新たな持続可能な開発アジェンダに関する成果文書についてコンセンサスが成立しました。

この新しいアジェンダは、2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」で、世界のリーダーが正式に採択することになります。

持続可能な開発目標

- 目標1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- 目標2 飢饉に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
- 目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

- 目標4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 目標5 ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 目標6 すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 目標7 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 目標8 すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する
- 目標9 レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
- 目標10 国内および国家間の不平等を是正する
- 目標11 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする
- 目標12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する
- 目標13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 目標14 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 目標15 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 目標16 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 目標17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

* * * * *

関連リンク: [持続可能な開発目標ファクトシートはこちらをご覧ください。](#)

Copyright © UNIC, All Rights Reserved.

永續發展目標

- 目標 1. 消除各地一切形式的貧窮
- 目標 2. 消除飢餓，達成糧食安全，改善營養及促進永續農業
- 目標 3. 確保健康及促進各年齡層的福祉
- 目標 4. 確保有教無類、公平以及高品質的教育，及提倡終身學習
- 目標 5. 實現性別平等，並賦予婦女權力
- 目標 6. 確保所有人都能享有水及衛生及其永續管理
- 目標 7. 確保所有的人都可取得負擔得起、可靠的、永續的，及現代的能源
- 目標 8. 促進包容且永續的經濟成長，達到全面且有生產力的就業，讓每一個人都有一份好工作
- 目標 9. 建立具有韌性的基礎建設，促進包容且永續的工業，並加速創新
- 目標 10. 減少國內及國家間不平等
- 目標 11. 促使城市與人類居住具包容、安全、韌性及永續性
- 目標 12. 確保永續消費及生產模式
- 目標 13. 採取緊急措施以因應氣候變遷及其影響
- 目標 14. 保育及永續利用海洋與海洋資源，以確保永續發展
- 目標 15. 保護、維護及促進領地生態系統的永續使用，永續的管理森林，對抗沙漠化，終止及逆轉土地劣化，並遏止生物多樣性的喪失
- 目標 16. 促進和平且包容的社會，以落實永續發展；提供司法管道給所有人；在所有階層建立有效的、負責的且包容的制度
- 目標 17. 強化永續發展執行方法及活化永續發展全球夥伴關係